

## 【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和4年度 第2回理事会別添資料

2022.6.5(日) 15:00~18:30

会長挨拶：皆様、こんにちは。

久しぶりに皆様が東京に集まり、理事会が開けることを嬉しく思います。しかし、コロナ感染の不安が解消されたわけではありませんので、感染防止には十分な注意を払って頂きますようお願いいたします。

さて、5月8日に開かれた役員候補者選考委員会は、非常にスムーズに協議されたと報告を頂いております。本日の理事会におきまして、次期理事の方々を決議し、総会に上程することとなります。ご審議のほど、宜しくお願いいたします。この2年間を振り返ると、簡単ではなかったことがたくさん思い出されます。公益法人化を目指すことが、なぜ必要だったのか、皆様にはご理解いただいていると信じております。私たちは、山根体制時に行われていた不正経理、不正判定、教育現場での無作法行為等が、選手・指導者・関係者・ボクシングファン等の方々に対しての裏切りであったため、どんなことをしてでも、そこから生まれた不信感を払拭し、信頼を取り戻すことが必要でした。正直に申し上げますと、山根体制時の理事の方々が、それらの問題を止めることができなかつたことも、信頼の失墜に繋がりました。これは、善管注意義務、つまり善良なる管理者の行うべき、注意義務を怠ったということになります。このことは、我々が考えるより、統括団体には大きい問題として、重く受け止められています。そのため、日本スポーツ協会からの処分は解除されたものの、JOCは山根体制時に下した日本ボクシング連盟への処分を未だに解除していません。このことが大きいのしかかり、公益法人化にかなりの遅れが生じましたが、それでも日本連盟は、粘り強く努力を続けております。今回の次期理事の体制であれば、残された問題も解決し、公益法人化が達成できると確信しております。ところで、連盟の改善や公益化に向けて、山根体制の当時の理事の方々は、その趣旨をご理解いただき、辞任までされました。しかし、辞任された後、日本スポーツ協会の処分は解除されても、JOCの処分が解除されていないということ、やはりよく考えて頂かないといけないのではないのでしょうか。私はこれまで、いろいろな問題があっても、実名を出さず、できるだけ揉めることがないよう努めてまいりましたが、残念ながらその気持ちは全ての方に伝わるのがなく、更なる問題を生んでしまいました。長い時間、大変悩み続けましたが、本日はお名前を出して、話をさせていただく事に致します。申し上げにくいことではありますが、一般社団法人日本ボクシング連盟の元副会長、現在、当連盟顧問の鶴木氏についてです。鶴木氏は、全国の正会員やボクシング関係者及び法政大学OB会を通して、日本連盟のことや現理事のことで事実と異なる内容を流布しています。過去の議事録をしっかりと読んでいただいている方には、単純な嘘とわかるような内容ではありますが、数百にも及ぶLINEのメッセージを多数の方々に送信し続けております。事実無根の内容に関しては名誉毀損になりますし、差し止めの法的手続きも考えましたが、このことに注力する暇はなく、日本連盟として行うべき普及や大会運営がありました。鶴木顧問は、日本ボクシング連盟への誹謗中傷をする中で、国民体育大会で隔年実施競技を復活できない責任が現体制にあるように記載しておりましたが、2023年度から始まる国民体育大会でボクシングが隔年実施競技となることは2017年3月に決定しています。つまり山根体制の時代の暴挙がそのような評価につながっているわけです。また、皆様もお気づきとは思いますが、鶴木顧問がもっているB級DS資格ですが、ブロック大会までの資格であり、全国大会での正式な資格ではないにも関わらず、全国大会でDSを務めていました。山根体制では特別に許されていたようですが、新体制では資格を重視し、資格がなければDSはできないことと、審判部は決定しておりました。それでも強引な態度で全国大会のDSを行ったため、菊池理事よりDSとして参加すること

を止めるように進言されたことがありました。できるだけ大きな問題にならないように水面下で進言したにもかかわらず、その配慮が伝わらず、非常に残念です。鶴木顧問の逸脱した行為は、単に自己都合であり、あまりにも酷い状況だと言わざるをえません。以前からその行為に関して、私も数多くの方々から「鶴木さんからのラインを止めさせてほしい」「鶴木さんからくる電話やラインで困っている」等のクレームや相談を受けていたのも事実です。そこで、一般社団日本ボクシング連盟の顧問であることは不適切と判断し、(本日をもって)顧問を解任いたします。都道府県連盟の方々も、このような噂や話に惑わされず、真の連盟と信頼関係を構築することが重要ではないかと考えております。また、現理事ですので名前は伏せさせていただきますが、山根体制時の理事でもあった方が、その時の反省を生かすことなく、ご自分のことを優先され、改革に尽力・ご協力いただけなかった場面が幾度となくありました。定款にもある、「我が国におけるアマチュアボクシングの普及と振興を図る」ということに、本当の意味でご協力いただいていたのでしょうか。その方々は、最高意思決定機関である総会で決定し、東京都墨田区で開催された、全日本ボクシング選手権大会の開催には、まったく協力せず、関東を中心とした全国からの有志の協力によって開催された大会となりました。また、全日本大学王座では、複数の選手がコロナに感染したことで開かれた緊急理事会で参加辞退を申し出ておきながら、理事会をスポーツ仲裁機構に訴えるという暴挙に走りました。勿論、理事会は勝訴しておりますが、これは理事でありながら業務執行機関である理事会の軽視以外なものでもないと思います。これは理事として、あるまじき行為であり、公益化に向けて必死に努力し続けている人に対しても、とても失礼な裏切り行為ではないのでしょうか。組織にかかわる役員が、真摯的で誠実な意思のもとに行動することが求められていることを忘れないで頂きたいと切に願います。私たち理事は、都道府県ボクシング連盟と共にあります。選手の発掘から、育成をくださった都道府県連盟や、高体連ボクシング専門部、並びに各学校関係者等に支えられている選手がいます。その選手をお預かりして国際試合に出場していることを、忘れてはならないのです。日本ボクシング連盟関係者にとって、信頼回復が必須なのです。信頼の回復なくして国体通年実施競技への復帰は不可能です。信頼回復なくしてJOC処分解除は不可能です。信頼回復なくして、この競技の将来はありません。私たちの活動は、このことに取り組む2年間でした。付け加えますが、山根体制時代の理事が永久に理事をすることができないとも考えておりませんが、JOCの処分が解除されない状態で、処分決定時の理事が理事になるということは、一般常識として不可能だということは、ご理解いただけたと思います。今後、理事を目指される方は、名前だけの理事ではなく、自ら連盟の仕事をし、ボクシング競技の発展に寄与して頂き、論功行賞ではなく、汗を流せる方でないといけない、ということをご理解いただきたいのです。総会で決議いただく次期理事候補者には、これまで取り組んできたことを受け入れていただくと同時に、更に大きな課題があることをしっかりと認識してください。パリオリンピックの後、ボクシング競技がオリンピック競技から除外される危機にあります。このことはネットでも検索できますが、バツハ会長は記者会見でも「ボクシング競技は問題児だ」と発言しており、除外についても言及しています。理由としては、ガバナンス・ファイナンス・判定システムの不透明さです。オリンピックから除外されれば、国民スポーツ大会での評価基準でも大きな減点となり、通年開催への妨げとなります。それを回避するために、日本連盟からは次世代判定システムを開発して、世界連盟に提案してきました。更に日本連盟が行うグランドプロジェクトに対して、世界連盟も協働することが決まっており、このことによってオリンピック競技からの除外を回避できる可能性があると考えております。日本ボクシング連盟は、IBAの改革にも協力して、世界のボクシングファミリーと共に危機を乗り越えたいと考えております。次期理事には、このことを継承していただく必要があると思っており、全理事のご協力のもと、取り組んでいただくことを強く願っております。私は、4年間会長として幾度か海外の大会に参加させていただきましたが、その際、僅差で日本選手が負ける試合を見続けたと

き、その原因を考え続け、わかったことがあります。それは、日本チームに不足していたものは、選手の強化だけではなく、海外でも認められている審判及びスターコーチの人数の少なさだと思えました。そのため、世界連盟と何度も交渉を重ね、一昨年にはワンスター審判試験、そして今年にはワンスターコーチ試験を日本で開催することを実現しました。また、今年7月にはツースター審判試験を日本で開催する方向で話を進めております。今まで、金銭的及び時間的に多大なる負担を個人にお願いして取得して頂いていた資格ですが、この取り組みにより、実際の数字で言いますと、ワンスター審判を16名、ワンスターコーチを31名増やすことができ、審判及びコーチの資質を向上させることができました。本日の理事会では、こういった問題や実績も踏まえ、前向きな議論をお願い申し上げます。長くなりましたがこれもちまして私の挨拶といたします。

## 1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

### 1) 決議事項

#### 1. 令和3年度事業報告及び決算報告について

仲間専務理事：活動告書についてご確認いただきたい。外部統制先からの指導に対応する形で作成している。JOCからの勧告処分への対応も、先日13回目の報告を行った。

また、ホームページに規程や規則、議事録の掲載を行っており、第三者への情報共有について内閣府からも評価されている。皆様にもホームページを活用していただきたい。自主財源増加については、グランドプロジェクトやNHKによる全日本選手権の決勝戦のみの放映から、民放とタイアップしたインターネット配信を行うことにより映像著作権を獲得したのもこの一部と言える。強化事業においては、派遣する選手やコーチの決定について、業務権限を明確にして取り組んでいる。もちろん穴もありますので、理事間でポジティブな形で助言をし合って健全な組織運営が継続できればと考えている。

坂巻議長：事業報告について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

富岡マネ：決算報告について貸借対照表と正味財産増減計算書から形成されている。貸借対照表は資産と負債と資本という三部構成となっている。正味財産増減計算書は、収益・経常費用・その差額が記載されている。費用科目の管理費領域と事業費領域について皆さまにご理解いただきたい点は、ガバナンス不全であった時代は、事業費領域にのみ偏重しており管理費領域に思いが至っていなかった。

小池氏：貸借対照表について、今年度は多くの事業を実施することができ、助成金事業で助成金を獲得することができたので、それに伴い事業費も増えている。未収入金が2400万円程あるが、決算時以降には受領している。昨年度と科目等はほとんど変わっていない。正味財産増減計算書の収益では、マスボクシングの登録が開始されたので科目を増やしている。また、スポーツ庁からの助成金の金額が大きかったため、新たに科目を増やしている。費用の方では、オリンピック等でメダルを獲得しているので、まだ未払いではあるが会長からの寄付を報奨金として計上している。科目として増やしたのは以上である。事業費が昨年度よりかなり増えたため当年度の差額71,477円が2021年度決算の最終の数字となった。

事業費の中で、雑役務費が増えているのは、助成金事業の方から指導されている科目名であり事業委託の費用やPCR検査や抗原検査にかかった費用などがすべてこの中

に含まれている。対象外経費というには、助成金として報告したが、対象外となったもの（渡航費や宿泊費、交通費など）がこの経費となっている。

中村理事：スポーツ振興基金が昨年度は0円となっているのはなぜか。

小池氏：昨年度決算では「その他」で計上されていたが今年度は科目を増やしたためこのようになっている。

坂巻議長：決算報告について反対意見の方は挙手をお願いします。

（反対意見なし）

仲間専務理事：委員会の報告を総会までをお願いします。資料については目を通して下さい。

岩井監事：監査報告について、独立監査人からの報告書を基に、5月21日に泉監事と、監査を行った。理事の職務実行状況の内容もふまえて監査報告書を作成している。事業報告・決算報告とも適正であった。業務権限規定等の整備も進んでおり一定の成果があったと理解をしている。公益法人化に向けて早期に進めていただきたい。

坂巻議長：監査報告について反対意見の方は挙手をお願いします。

（反対意見なし）

## 2. 役員候補者選考委員会より選定された役員候補者の確定について

仲間専務理事：私は審議される側ではあるが、理事会で審議していただいた委員5名とオブザーバーとして豊田事務局長が入り5月8日（日）にOlympic squareに集まり5時間ほどかけて話し合いを行っていただいている。私は冒頭だけ立ち合い退室後に審議をしていただいた。最終的に24名の理事候補と監事2名が選出された。目標であった女性比率20%については、25%を達成、外部理事も37.5%を達成できた。候補者の方には承諾書を送付し、書面で確認を行っている。回収に時間がかかったため資料の提出が遅れましたが、書面でいただけていないのが青島氏と山口氏になるが、直接ご本人に理事就任の意思を確認している。

安川理事：相馬氏は国際審判員資格を有しているが問題はないのか。

仲間専務理事：理事として活動する意思が確認できている。ご本人にも面談で確認したい。

中島理事：総会で一括承認となるのか。一括承認にはならないのではないのか。

仲間専務理事：正会員の方々に一括承認でよいかを諮る。否決されれば個々について審議となる。

中島理事：私の方から、正会員からの提案権行使の書類を内容証明郵便で送付しており、その方々は総会で賛否をとる必要があると認識しているが。

仲間専務理事：役員選考委員会で審議しているが。

中島理事：正会員の提案権行使の書類は届いていないのか。

岩井監事：事実関係はわからないが、中島理事が仰っているのは、一般社団法人法に基づく個々の会員が6週間前までに連盟に請求することができる提案権行使の話なのか。

中島理事：その通りです。

仲間専務理事：差し支えなければこの場でどのような提案をしたか教えていただきたい。

中島理事：正会員の賛否をとってくださいという提案です。正会員の3分の1にあたる二人で提案をしている。これは賛否をとらないといけないと理解しているが。

吉沼理事：間接的に聞いているが、法人法の43条の46条に基づいて、定時総会の6週間前に議決権行使の提案をして内容証明も含めて事務局に届いている。と、聞いている。提案する議題というのは「理事17名の選任の件」ということで、今回の理事候補と重複している人もいるが、そうでない人もいる。つまり6週間前に送付しているので、決議しなければいけない。と、なるとこれをどのように扱うのかという話である。いわゆ

る法人法に基づいて6週間前に議決権を持つ、社員30分の1以上の名前で提出をしている。こういうことになりますのでどうなるのでしょうか。5月2日付です。

これがスルーされているとなるとかなり問題かなと思います。

岩井監事：選考委員会に基づく理事候補は理事会承認を経て総会に提案するが、吉沼理事が言う、法人法43条というのは正会員の権利に基づく役員候補者の提案ということになる。全く別の権利による候補者の提案となるので、正当に行使されていればどちらも並び立つものになると考える。それが、正当に行使され総会に提案しうるものであった場合にどのような形で決議の方法をとるかということは、総会で決めてもらうことになる。

仲間専務理事：今回の理事会では24名について決議をとり、17名に関しては総会の時に決めることになると思う。ここでは結論は出ないと思うので顧問弁護士と扱いについて相談する。

中島理事：役員選考委員会の議事録で、選考に当たっては内閣府の公益認定委員会からの助言に基づいてスポーツガバナンスコード早期達成を目指すべく前体制の理事は理事候補から避けることにした。とあるが、これは内閣府からの助言から続いているのか。

仲間専務理事：私はその場にはいなかったもので、議事録以外のことは発言しないことになっている。

中島理事：山根体制には関係のない、猿山氏、石橋氏、小山田氏などが理事候補から外れるのは内閣府からの助言に関係するのか。

仲間専務理事：この議論は我々がタッチするところではない。

中島理事：岩井さんでもいいのだが。

仲間専務理事：役員候補者選考委員会の決定については理事会を通すが議論する場ではない。

吉沼理事：名簿と議事録を資料として配布してもらいたい。

仲間専務理事：議事録は配布済みであるが・・・候補者は38名挙がっていて24名を選考しているので個別に外れた理由は言わないと思われる。

吉沼理事：議事録があれば宜しいかと思う。

小山田理事：井崎氏は外部理事なのか。

仲間専務理事：パーセントの計算の時にカウントしたが登録の経歴によっては外部理事から外れることもあるかもしれないのでご指摘の通りかと思う。

井崎理事：日連の理事になるまで5年間登録していなかった。

仲間専務理事：きちんと確認した上で総会に提案したいと思う。

坂巻議長：役員選考委員会より選定された24名の理事候補者の確定に反対の方は挙手をお願いします。(反対意見2名(中島理事・小山田理事))

坂巻議長：監事2名についてご意見があればお願いします。

中島理事：岩井監事に1ヶ月ほど前に文章で質問をした。3月の総会で会長が冒頭で発言した件で、私としては大きな問題であると岩井監事に質問をした。岩井監事からは、社員の覚せい剤事件であり、社員の持続化給付金詐欺事件であるので法的には関係ないと思うという返事をいただいている。あなたがそう思うのであって、著しく損害を及ぼす恐れのある事実と具体性に乏しいと言われているが、事実は事実であり、管理責任はないのかな。という想いで質問をしたが連盟としては教育的観点から問題があると考えが。その件は変わらないのか。

岩井監事：確かにご質問の内容については理解したが、監事は調査機関ではないので、そのようなご指摘をいただくのであれば具体的な事実と、それに基づく具体的な損害について、具体的な主張をいただかないかぎり評価ができないという回答を差し上げた。印象だけを述べられても動くことはできないので、監事としては対応すべき必要は認めていませんという回答をした。

仲間専務理事：会長はご自分で事業をやっている中で、社会貢献という観点から会長職をやっている。また道を踏み外した若者に更生の機会を与えるための雇用を行っている。中には再度道を踏み外す人もいるかと思う。それが全て雇用者の責任となるのか。

中島理事：しかし法人の会長なので間違いは許されない。あつてはならない事だと思う。

木庭理事：4年間内田会長のボクシングに対する仕事ぶりを見てきたが、本当に一生懸命やっていた。今後ともお願いしたいと思っている。中島理事や数名の方が、理事会で審議をして決まったことを、後になって「なぜだ」「どうしてだ」とネガティブな発言をしている。なぜ会長を応援して理事が一枚岩になってボクシングを良くしていこうとしないのか。皆がまとまらないと恥ずかしい。いかがでしょうか。

井崎理事：ニュースで大企業の末端の社員が罪を犯すことがあっても社長が辞任するなど見たことがない。

坂巻議長：役員選考委員会より選定された2名の監事候補者の確定に反対の方は挙手をお願いします。(反対意見なし)

### 3. 令和4年度第1回総会の開催について

仲間専務理事：6月26日(日)10時からとさせていただいた。年間表彰を総会後に行うため、10時という時間にさせていただいた。主に役員選任の件と予算と決算、各委員会の報告を行いたい。Zoomも用意しますが年間表彰もあるのでご参集いただければと思います。現状のコロナの様子では感染対策をしっかりと行えば可能だと考えている。

中島理事：新理事が一括承認であれば現地に召集をかけてもよいかと思うが、残りの数名を正会員からの賛否を諮る必要がある。その方は招集がかけられない。役員決定のための新理事会は後日に行う必要がないか。

仲間専務理事：新理事候補として参加してもらうことは難しいのか。

中島理事：もしも否決されたら、そのままお帰りいただくことになってしまう。

岩井監事：通常であれば、その場で理事会を開いて会長の選任を行うが、今回は、全員が集まらない状況であれば、別日程で開催するという事になると思う。

仲間専務理事：24名に追加で8名程度の候補者に来ていただくのは難しいのか。

岩井監事：全員が参加でき、その場で就任承諾がとれれば問題はない。

招集通知第2号議案は、「役員候補者選任」ではなく、「役員選任」と変更し、員数も、明示していただきたい。定款ではマックス24名だったと思うので「理事24名監事2名の選任の件」とすることが望ましい。

坂巻議長：令和4年度第1回総会の開催について、第2号議案の表記を変更したうえで議決をお願いします。反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

## 2) 審議・報告事項

### 4. 令和3年度年間表彰の開催(および表彰者の追加について)

仲間専務理事：総会の後に会場を移動して実施したい。岡澤セオン選手を育成したデベロッパー賞に日大山形高校の佐藤祐平氏を追加したい。また、会場費等で大きな金額がかかるので会費制としたいが皆さんのご意見をお聞かせください。

菊池理事：以前、岸記念体育館で行った時も2万円ずつ徴収している。今回はオンライン参加等もあるが、それをそうするのか考える必要がある。参加できない都道府県も半額程度は負担するべきではないか。

井崎理事：粗末なことを申し上げるが、プロのMCを入れるとも聞いているが、削減できる部分は削減してもよいのではないか。

池端理事：みんなでお祝いすべきことなので、参加者の会費プラス、参加できない理事や都道府県にも負担があっても宜しいかと思う。削減できることは削減も必要かと思う。

後藤理事：みんなでお祝いするという事で一定の金額を負担することは必要だと思う。

林田理事：菊池理事に賛成です。

中村理事：同意します。

小山田理事：削減できるところは削減してから金額を決めればみなさん納得をすると思う。

仲間専務理事：MCというのは、司会者なので高額な金額がかかるわけではない。東京都内という事で会場費が多くかかる。華美な演出等を行うわけではない。

仲間専務理事：皆さんに負担をお願いする形には賛同いただけるか。例えば参加者2万円、オンラインなら1万円など。お金のことなので皆さんの同意があるとありがたい。

安川理事：参加できるのは正会員と理事だけなのか。スポンサーなどはどうか。

仲間専務理事：コロナのこともあるので積極的に声掛けをしていないがご意見をいただければ。

また年間表彰をしながら正会員とのコミュニケーションが図れればとも考えている。

内田会長：東京都内なので会場費もかかるし、お祝い事なので皆さんに負担をお願いできればと思う。東京都内でこのような催しを開くと1人どの程度かかるものなのか。

中島理事：コロナ禍なので半分くらいの参加ではないかと思う。

菊池理事：岸記念で開催した時は参加不参加にかかわらず2万円の負担をお願いしたと思う。

吉沼理事：ここではなかなか決まらないと思うので、華美ではないが恥ずかしくない程度の金額の案を出していただき同意を得るしかないと思う。

仲間専務理事：またLINEでも提案をします。

## 5. IBA総会の結果報告

内田会長：実際には選挙はなく現会長のウマル氏がそのまま就任した。仲裁機構等に訴えが起こっていると聞いている。各国の会長と話ができたが日本に対して友好的な感情を持っていただいている印象であった。アジア連盟の会長も2スター審判員試験に協力的な姿勢をいただいている。日本は世界的にも評価されている。

## 6. 令和4年度全日本選手権開催について

仲間専務理事：昨年度は墨田区で、初めての日本連盟主催で行った。皆様のご協力と実行委員長を務めていただいた中村理事のおかげを以って盛大な形で終えることが出来た。今年度も、早めに実行員会を立ち上げて準備して行く必要がある。

中村理事：2022年度は11/22～11/27での開催で、昨年度より一日長く行う。階級が増えたこともあり、運営が厳しい状況で長時間になる。

鶴木氏のLINEで「中村・坂巻が高体連を利用して大会開催をしている。北信越連盟は協力しないと決議した。」と言われていることを聞き、残念であった。高体連に依頼をいた覚えはなく間違いである。

昨年の全日本選手権は、開催地が東京都、関東であるのに地元の協力を得られなかった状況で、手探りで始まったが皆さんの御協力で成功裏に終わった。

放映の件では、井崎理事がメディアに長けているのでお願いしたが、NHKからフジTVに変えたことについてLINEで色々批判を流布している。

私が言いたいのは、協力しないと行って、後から批判するのはおかしいと思う。

NHKからフジTVに変えた批判については、井崎さんが個人攻撃を受けている。実行委

員長は私なので、批判は中村に来るべきである。

終わったことではあるが、後味が悪い。今年度は誰が中心になって運営するのかわからないが、皆が協力してさらに良い大会にして行けたらと思う。

井崎理事：陰で誹謗中傷のLINEが送られていることは聞いている。私の知らないところで凄く送られていることが、とてもショックである。NHKの件については、何度も説明してきたが、いつまでもバッシングされることは、私的に大変不本意であるので説明させていただく。

一つ目は資料率について、皆さんが一番気にしていることであるが、私からすると、この数字だけを焦点に当てるつもりは全くない。結果として、最終的にはフジTVが中継してくれたが、NHKのBS視聴率よりもフジTVの視聴率の方が高い。通常TVをつけるときにBSをつけず地上波をつける。だからBSは視聴率が出ない。フジTVの方が効果検証も出来るし、数字がはっきり出ている。

二つ目は、日連Youtubeチャンネルで中継した経緯である。皆さんは、過去のNHKの中継の契約書を見たことあるか？皆さん読んでないですよ？私は読んで、今までやって来たことが正しいかどうかを検証することはとても大切なことである。私は、NHKで放映することに全面否定ではない。著名な選手が出てきているわけでもないのに、何十年も中継してくれたということは、本当に感謝すべきことだと思う。この契約書の内容を読んで、日連の未来を考えた時にとてつもなく不平等契約と言わざるを得ない。切り替えた要因は4つある。一つは昨今のテレビ視聴環境の変化である。今の世の中は、もはやテレビではなくて、スマホとかネットの視聴の方が高い。二つ目は、全日本選手権という最高峰の大会の決勝戦だけではなく、全試合を複数カメラで中継したかった。三つ目は、自主財源確保のためには、リング周りのスポンサーロゴの掲示をしたかった。これはNHKには断られた。四つ目は、映像の著作権を日連が持つことで、将来の財源確保に繋がる。今まで我々は、全日本選手権を開催してきたが、何百試合もやっているのに一試合たりとも著作権を持っていない。いまだに、競技団体が著作権を持っていないことが珍しい。どの競技団体も著作権を持とうとしている。

このような話は、ちよくちよくさせていただいたが、皆さんは多分わからないのではないかと考えたので、メリットの比較表を作った。独自配信に至った経緯も時系列で作った。良かったら今日見てください。

三つ目は、理事会での承認について、そもそも、この件については決議事項ではない。名指しして申し訳ありませんが、中島理事、「どうなっているんだ」といつも質問して来るのが不思議でならなかった。進捗状況については、理事会の都度報告して来た。今回の放映の件についてもだが、我々は、契約先が決まっていないことの内容は絶対に口外できないことである。だから、いつも議事録には残さないで欲しいと言って、報告して来た。理事の意見の中で、どうしてもNHKでないといけなないといった論理的な意見はなかった。何でその時に言ってくれなかったのか？

四つ目は、鶴木さんからの私の誹謗中傷LINEについて、鶴木さんは日連の顧問であった。私と鶴木さんとの個人的なLINEの履歴が残っているが、凄く可愛がっていたと個人的に認識している。

私がおかしいことをしているのであれば、日連の将来を考えて、顧問として私に指導



するべきではないか？本当におかしいと思うなら、電話でも LINE でも言ってくればよかった。そこに議論が生まれより良い改革に繋がって行くのではないか。

それなのに、私が言ってもないことや、やってもいないことを全国の県連とかボクシング関係者に送り付けているのが事実。鶴木さんは、全国の人に知られている。私なんか無名である。知っている人と、知らない人の言うことは、知っている人の言うことを信用するのではないか？私はこの数カ月、日連のために良かれと思ってやってきたことをとんでもない暴挙に出ていると言われていた。正直、私は心を痛めている。理事になりたての頃は、知っている人も居なくて、可愛がってくれていたのに、こんな年になって、大好きなボクシング競技の先輩にいじめられるのはショックである。50何年生きてきて、いじめられたことなど一度もない。何でこの競技団体でいじめを受けなければならないのか。教えて欲しい。

個人的な意見と感情的になって申し訳ないが、この数カ月苦しかったことを述べさせていただいた。

菊池理事：全日本選手権については、極めて重要なことがある。今年度もまた、東京都連盟と関東連盟は、今年も協力しない姿勢なのか？そのところをお伺いしたい。

昨年度は全く協力をいただけなかったが、このことは、理事の総意だったのだと思うが、議事録とかを公表できるのであれば見せていただきたい。

中島理事：理事会に諮ります。

吉沼理事：多分、最初の出発点だと思う。わからない委員会何とかからボタンの掛け違いが始まった。今回はしっかりと委員会をどうやってやるのかを決める必要がある。前回は、トークルームからフワフワと始まったのが悪かったと思う。

内田会長：吉沼さん、どんなスタートであろうと、どんな形であろうと、私たちは選手のために開催している大会である。途中、最初がどうであろうと、最後まで協力して行くのが理事として大切なのではないか。今年も全日本選手権は有ります。今年は協力されますか？

吉沼理事：今、私が言える話ではない。ただ、言えることは、ずっと東京でやるということであり、その負担が大きいので、話し合って決めたい。

今までは、国体のリハーサル大会として実施してきたが、それが毎年東京で、それもウィークデイで毎年開催なので大変である。これらをどうやって解消していくかがという話になる。

内田会長：そこは、皆で協力して、話し合いして考えて行く。最終的には、皆で話し合いして大会を開催して行くことが本当ではないか。

吉沼理事：その皆というのを、どういうふうに割り振るかということである。今ここで答えろと言われても、私だけではない。皆さんの話しを聞いて回答する。私にそんな権限はない。東京でずっとやることは非常に負担が大きいということを御理解いただきたい。これをどうやって軽減措置して行くかというところ。同じところでずっと全日本選手権を開催して行くことは、かなり負担である。その辺の軽減策とか、人員とか、資金とかを論議しないといけない。そうしないと、継続して東京で開催できない。

中村理事：人集めは大変である。でも、実行委員長が腹を決めれば、協力して集まる方はいる。昨年度の話で、本当にアスリート委員会からずっと東京でしたいという話が出たのかを成松委員長に確認したところ、「もちろんです」と答えた。今までは、選手は地方を巡っていたが、首都圏で開催して欲しいという気持ちを受けてのことである。大変だが、腹を決めれば協力してくれる人はいるので、是非お願いしたい。

小山田理事：NHKの契約について、言えなかったのか？理事の皆さんに、もっと丁寧に説明があつて

も良かったのではないかと個人的に思った。NHKに広告を断られたという話だが、カーリングではスポンサーが出されていた。競技によって違うのかわからないので教えて欲しい。

井崎理事：NHKとの契約の詳細に関しては、わりと小出しに話していた。放映権料とか言っていたはずだ。著作権がないことも言っていたはず。

小山田理事：そこらをもっと丁寧に説明した方が良かった。勝手に決めるはずはないはず。勝手に決めていると言われることはあるが、絶対にそんなことはない。誰も知らないところで決まっているようなことは、前の政権の話である。

中島理事：NHKの問題は私の知っている限り二つしか知らない。報告については、LINEだったか？「今、NHKと交渉しています、私の責任で決めます」というLINEだった。「決めるときには、皆さんに相談します。」ということだった。ある時、「こうしました」、「決めました」とLINEに報告があった。いつ相談するの？私の責任で全部やってしまうんだと、疑問を持った。

中村理事：どこで線を引くかということはあるが、実行委員会にある程度任せられて進める部分はあると思う。

井崎理事：中島さん、そこらが伝わってなかったのであれば、私が悪かったと思います。申し訳ありません。ただ、とてつもない罪人の様に扱われることはないのではないかと。中島さんが言ったわけではないが、私の人間性を否定されている様な気がしていた。私は言い返せないから、そこが不本意だと思っていた。

仲間専務理事：中島さんが、井崎さんが「相談しますと」言っておいて、井崎さんが勝手に決めたようなことを言われたが、井崎さんが悪意を持って自分の思うように操作をしているのではないということは御理解していただけたか？トータル的に、一般的に良くなったと感じられる部分があると皆思っているのではないかと。

井崎さんのしていることが、理事として当たり前と言われたらそれまでだが、自分の仕事が忙しい中、時間を割いて、自分の得意なところに関して、ボクシングに対して貢献してくれている。良くしようとしているのに、内部から上げ足を取るようなことをされると悲しくなるし、嫌にもなる。井崎さんが気持ちをしっかり持って、連盟に関わってくれているが、辞めたいと言われても仕方ない。ボクシング連盟に対して一生懸命に関わってくれて、ポジティブな効果をもたらしてくれる方を排除してしまうことに繋がってしまう。皆で協力して、前向きにやっていくのが健全で良い組織だと思う。

吉沼理事：つまり、東京での開催が続く。東京や周辺の件がどういう枠組みで運営して行くのかを考えないと提案できない。漠然と東京都は手伝うのかと聞かれても回答できない。

仲間専務理事：昨年度は、東京都連と関東連盟の協力をいただけないまま開催して、多くの方が協力して頑張った。中村先生は本当に大変だったと思う。東京都と関東連盟が協力してくれば、もっと良い大会に出来ると思う。昨年体制を見たら、東京都と関東連盟に直接押し付けるスタンスではないことを理解していただけないのではないかとと思う。

吉沼理事：全てを押し付ける話になったら、東京ですと開催する話にはならない。東京がウィークデイの一週間人を出さないといけないということが何年も続いていく中で、どうやったら皆さんが、やってあげようかというようになる工夫とか、他の手助けとかを決めていかなければならない。その中身を決めていくということで、その中に参画して行くことを拒否している訳ではない。私に権限はないので、ここで直ぐに回答は出せない。皆さんと相談しないとけない。

回りくどい話になるが、NOとは言っていないが、これは長く続くのでということ。

仲間専務理事：これまでも1年間あったので、何も議論してないことはないのではないか。どういう形で協力するかは話し合わないといけないと思うが、可能な限り協力しますねと言ってくれる方がポジティブな回答なのかなと思う。

中島理事：2年前に墨田区で開催しますよと言ったのが、ボタンの掛け違いからスタートしないといけない。

関東リーグを含め、色々な大会をやっているが、仕事の量が多い。タイトな日程で大会が入っている。私も二週間前に頭おかしくなって一週間休んでいた。一週間寝ていて、関東連盟を辞めようかと思った。タイトな中で気持ちが乗らないと出来ない。仲間さん、気持ちが乗れるようにやりましょうよ。

仲間専務理事：関東は本当に大変だと思うので、そうやって御尽力していただきありがとうございます。関東は今日人口が多くて、大会も多いところをコントロールしてくれていることは、本当に凄いことと思う。ありがとうございます。

ただ、今回の全日本に関しても、丸投げをしようとしている訳ではない。去年は中村先生を中心に上手くいっている。その中で御協力をお願いしているわけで、今回話しているのは、実行委員会を立ち上げましょうとアナウンスした。関東連盟や東京都連盟にやってくださいねと言っているわけではなく、実行員会を立ち上げて日連がやって行きます。その中で、関東連盟や東京都連盟に御協力をお願いしますとお話しさせていただいた。攻撃的な話しではない。

菊池理事：どなたの話しが攻撃的に聞こえたのかわからないが、2020全日本は、関東の方も参加いただき、その他の方も参加できるようになって、素晴らしい大会になった。

今年度においても進めて行く方向で、理事として旗振りをするべきでないかと私は思った。中島理事も吉沼理事も関東連盟の幹部と東京連盟の幹部かもしれないが、日連の理事であるのだから、大会運営に関して前向きに進めて行く考えを持つべきだったのではないと思う。墨田区での開催については、アスリート委員会の意見で決まったことも記憶にあると思うので、それに向けて皆で協力して行く姿勢は必要だったのではないか。あの時にお二人は否定的な意見を言われて、尚且つ、そのあとの関東連盟と東京都連盟の理事会で、協力しないという皆さんの総意で議決されたわけですよ。そういうふうになるには、そういうふうに旗振りをされたのか、本当に協力しないという意見だったのか。そういうところで、議事録を見たいと思っている。関東連盟でも、東京都連盟でも、大変だと思うけど、出られる方はお願いできないかと前向きに進めていただければ良かったのではないかと。他県からも有志の方に協力いただけた。今後は協力的な方向で持って行けるのではないかとという意味を含めて、今年度はどうなのかという話をさせていただいた。

要約すると、協力的にやっていただければと思っている。よろしく申し上げます。

中島理事：関東連盟で協力しないといった理事会とかしていない。曾根崎さんや群馬の方からも連絡が来たので、時間がある人は手伝ってくれと私は伝えた。

菊池理事：本当ですか。ありがとうございます。関東連盟、東京都連盟、全体的に協力出来る人は参加して欲しいということで良かったのではないかと。お名前を頂戴して、全国的に、関東連盟も東京都連盟も協力しているよ、皆で協力しているから、皆でいい大会作ろうねという雰囲気を作っても良かったのではないかと。なんか変でしたよ。東京都で開催しているのに、東京都連盟も関東連盟も名前がどこにも載らない。中島理事のおっしゃる、協力できる者はしてくれとせっかく言ってくれたのであれば、関東連盟は協力するという形で出していただいて、少なくともいいから参加できる者は参加して欲しいということで依頼していただければ、名前も載った。それであれば、おかし

なイメージを広げるようなこともなかったのではないかと思うが、そこはどうか。

中村理事：関東連盟は、組織としては協力出来ないという話だった。個人では、何人かお願いした。

内田会長：関東連盟として協力は出来ない。そこがわからない。さっき、中村理事が言われた、北信越は全日本に一切協力しませんという LINE が流れている。私たちは、選手のために皆で協力してやりましょうというものだと思う。なぜ、関東連盟としては協力しません。正直、意味が分からない。

なぜ、ブロックで協力出来ないことを、胸を張って言えるのか。その感覚がわからない。なぜそういうことが LINE で流せるのか。

北信越ブロックは、全日本に一切協力しないことを決議しました。なぜ LINE で流せるのか、その感覚がわからない。

選手のためにやるんですよね？ボクシング連盟全員で協力してやりましょうという大会だと思う。吉沼理事が言われたように、東京でするのは大変だということもわかるが、そこは協力して考えてクリアして行こうと思っている。そもそも、関東ブロックは協力しません、協力出来ません、北信越は出来ません、と言えるのは何故なのか？その感覚が私はわからない。

中島理事：そこだけにフォーカスして話すからそうかもしれないけど、これにはずっと前段がある。だから、協力しないとは言っていない。協力する人は協力してやってくれと言っている。

内田会長：協力できる人は、してくれというのはわかる。関東連盟は協力しませんという、ブロック単位でそういう発言がなぜ出るのか？を聞いている。前段があろうがなかろうが関係ない。選手のための大会である。選手が出場する大会を、私たち理事全員がする。理事は平等責任。皆で協力するのが普通だと思う。

小山田理事：ここでは言えないことがたくさんある。それぞれの思いがたくさんある。選手のためであることは皆さん多分わかっていると思う。上手く言い表せないが、それぞれの思いがぶつかってしまって、上手くまとまらなかったと思う。全日本選手権を日本連盟が主催するのは、多分初めてで、他の競技団体では当の前からやっていたことだと思う。実行員会をちゃんと立ち上げることが最初の段階で、菊池理事がおっしゃったが、そこで理事が責任を持ってやらなければならなかったと私も反省している。その実行委員会を作る段階の時に、皆さんの思いをぶつけて良い形を作って行けてれば、中村先生にご負担を掛けることなく出来たのかなと思う。

関東がとか東京がとかではなく、日本連盟として、実行委員会をどう作るといった形を詰めて話しておけば良かったのかと思う。内田会長も色んな思いがあって、中島関東連盟理事長も色んな思いがあると思う。今年度の大会に関しては、その辺の反省も含めてやればよい。過ぎてしまったことだが、良い大会だったと私も思うし、選手たちも満足した大会だったのではないかと思う。特に、オリンピックが終わった後でもあったし、世界選手権で岡澤選手と坪井選手が金メダルを獲って帰った後の大会だったので、非常に印象のある大会だったと思う。今年度に関しては、その辺のことも含めて、煮詰めて話しをするべきではないか。皆の思いが違う方向に行っている。そこをまとめながら話しを進めて行くべきではないか。

中島理事：さっき会長と話した様に、関東連盟はなぜやらないのか？という中で、関東として何が出来るのか考えたこともあった。関東、関東と言うが、日本連盟の主催ゲームを地元でやれと言われる、コミュニケーション不足があった。スタッフはどうするのか？

先ほど言ったように、タイトな日程を組んでやっているし、コロナの問題もあった。人は、高校生をバスに乗せて、関西から連れて来ますよと、関東のどこかの合宿所に泊めて、スタッフはそれで間に合わせるとか。これは、文字で出ていた。誰がやるのそんなこと？じゃ、俺らは関東でなにすんの？そんなこともあれば、行き違いもあると思う。さっきのNHKの話しだって、聞いている二つだけでなく、四つも五つも聞いていけば、違う感覚になる。LINE で見た二つしか聞いてないから、それしか理解していないから行き違いになる。全日本選手権にしても、東京、関東云々でなく、こちらでこういうふうにやっていますよと聞こえてくれば、それじゃやってくださいと、なったことはあった。理事と言われても、私もこれが最後の理事会だから、6月から先は理事でないことは間違いない。だけど、関東で協力しろと言われてれば、出来ることはやる。出来ることをやらないことはあり得ない。そういう日程の中で、関東は相談しながらやる。

内田会長：私はこの4年間、誰ともトラブルすることが無いように、出来るだけ協力的にやって行きましよう、心の中で決めて取り組んできた。私が先ほどから何回も言っているが、なぜ、ブロックで協力しないという言葉が出て来るのかわからない。小山田理事が言われたように、個人的感情が色々あるので行き違いもあると思うと言われたが、それもわかる。でも、関東が協力しない、北信越は理事会で決定した。私はその感覚がわからないだけ。今年度から協力し合って頑張りましようと言われてれば、それだけで十分満足である。

皆さんに聞いて欲しい、理事会で多数決で決まった。それをなぜ、反対だと後で言うのか？それはどうなのか？例えば、私は元々、宮崎県連の会長だった。日本連盟の会長になって宮崎県連の会長を降りました。日本連盟の理事会で話し合った結果、私の思い通りにならなかったと言って、私は宮崎県連の会長だから会長とし手の発言だと言って、総会では別のことを言う。日本連盟の理事として、そういうことがある。皆さんはどう思われるか？会長の代わりに総会に出席して、理事会で決定したことの反対のことを言いますということがあっても良い。先ほどの、役員選考委員会の話しもそうだが、役員選考委員会で決まった、理事会で認められた、私は都道府県会長として反対である。という意見を言う。皆さんはどう思うか？私の疑問である。私は宮崎県連の会長を降りた。理事会で納得の行かないことはいくつもあった。でも、理事会で決まったことである。それが普通だと思う。反試合の場で決まったこと、多数決で決まったことを守っていくことが普通でないかと思う。

先ほど、中島理事と小山田理事が反対された。それはそれで仕方ないと思う。ここは理事会で、理事で議決された。それを反対だと中島理事が言うことは問題ない。私も会社を経営して、従業員が1800人くらいいるが、幹部会で決まったことはそのまま流れていく。理事というものが良くわからない。どうなのか、意見を聞きたい。

菊池理事：今会長が仰ったこと、全く同感である。理事会で民主的に決定したことであるから、それを反対の立場で、総会で意見を言うのはあり得ない。日頃から思っていた。理事として、理事会で決まったことに関しては、それを他に理解して貰うように話しを進めて行く役割があると思う。先ほどの、全日本の話しもそうだが、理事会で決まったことは総意であるから。そこをしっかりと守る形で協力体制にしなければならない。私たちは、総会の終了まで理事である。

仲間専務理事：先ほど、中島理事が仰っていた内容証明に関して、今確認した。中島理事の名前も入っている形で、理事17名の選任の件に関して審議して欲しい旨が提出されている。役員候補者選考委員会や理事会で決定して、理事を選んで行こうという、JOCとか色々な

ところから言われている指導に基づいて、我々の中で自主的に組織の形をきっちりするために決めて行ったこととは別で、法律に基づいていることなので、当然、何かしらの形で17名プラス役員候補者選考の審議で候補者として上がらなかった人8名を追加して審議する形だが、どのようにして審議するかを決めないといけない。会長と菊池理事が申し上げていたことと関係すると思うが、今回、役員候補者選考委員会を作って、このようにしましたということに関しては、JOCの報告書に書かせていただいております、「組織として成熟する形で一歩進んでいる。」といった結構きちんとした評価をいただいている。役員候補者選考委員会に古谷さんというJOC理事の方に来ていただいているが、そちらに関しても、きちん和一歩進んだ形で出来ていると評価をいただいた。

中島理事が、正会員としての立場として、法律で認められている行為だと思うし、総会の中で審議しないとイケないと思う。

残念ながら、理事会という組織の中に属している方を含んだ方が、こういった形で適切に選ぶプロセスをこうしましょうねと逸脱した形で文書を送って来ることは、組織としての統一が出来ていないということでネガティブな評価になる可能性はあるかと思う。

もう一つは、内閣府が公益申請の中で懸念として出している加盟団体規程であるが、都道県連盟と日本連盟の関係をどういうふうなものにするかという形が、きっちり出来ていないことがあげられている。あまりきっちりと作り過ぎると、逆に日本連盟から制限を掛けることになるのではないかとこのことで、報告書の関係で色々調査アンケートを送らせていただいていると思うが、こちらはこのような形で、正式な形で、公平な形で第三者委員会を含めて選んでいることに対して、正会員から抗議が上がって来たということに関しては、ネガティブに見られる可能性はある。理事会の中で、きちんプロセスを経て役員を選ぼうという形を作ったにも関わらず、それを理解されていない且つ不満を持たれた形でやっている。加盟団体それぞれとの関係性がきちん構築されていない形に取られる可能性がある。

山本理事：先ほど、会長から北信越連盟が東京での全日本選手権の協力はしないとの宣言が出されたと聞いたが、北信越連盟が東京で行われる全日本選手権に対しての協力とはどのようなことが出来るのか？私は中国地方であるが、同じような質問が出てきた時は、経済的なことは別として、人員の派遣とかは不可能だと思う。そういった発言だったと考えるが。

内田会長：中村理事から北信越の話しを聞いて、LINEは実際に見てはいないが、協力をするしないは、本人が考えてするものであって、どういった形の協力でも出来ることをやればいいのかと思う。

山本理事：そうだと思う。今の話しである程度わかるが、人員を派遣して欲しい形にもとれる。高校生とか、大学生とか、一般の役員が支援をする。日本連盟から話しがあった時には、必ず人間を出さなければいけないのかといった様に発想が行ってしまう。そのようなところが懸念するところである。

中村理事：先ほども話したが、LINEに流れていた。北信越の人にそのようなことが決まったのかを聞いたら、知らないとのことであった。一個人が協力しないと決めてLINEに流すこと自体が問題であり残念である。

山本理事：私が言っているのは、関東連盟であるとか近隣の県であればボランティアとか活動は出来るだろうが、遠方であれば行って帰るだけで旅費が掛かるので、一日だけ手伝いに行くようなことは基本的に不可能だと思う。

菊池理事：北信越の話しだが、協力しないということは、情報のやり取りもしない、要するにもう何の協力もしないという決断をしたことに問題があるのではないか。距離が離れているとか関係なくて、離れていても応援します、何か出来ることがあれば協力しますということが、協力である。

協力をしないということは、どんな情報のやり取りも受け付けないということになるのではないか。

山本理事：協力するという事は、東京に行って手伝うことと受け取っていた。全てを拒否する感覚での受取方ではない。

内田会長：出来ることを出来る範囲で自分たちで考えて協力すればよい。遠方だと出来ないことはたくさんある。色々な協力の仕方がある。良い大会を作っていければ良い。

石橋理事：理事会で決まったことを総会で否定することについて、そういった矛盾を無くすために理事の票を無くした訳である。だから、基本的に理事としては矛盾はない。中島理事の場合は、総会には正会員として出るわけだから、会員としての権利を、理事だから使えないというのは違うのではないか。正会員は代表であって、県の理事会で日連の理事会と反対意見であれば、当然その県の代表であるから、日連の理事会と反対の意見を言わないといけない。そこは別にしないといけない。

内田会長：確かにそうだと思う。でも、日本連盟の理事として全国から選ばれてこの理事の場に立っている。この理事会で決まったことを正確に伝えて、その都道府県に対して説得を行うのも必要なのではないか。もしそのようなことがあれば、私の様に県連盟の会長を降りて、理事と都道府県とは違うという形が、正しい形ではないか。

石橋理事：そこまでのルールを決めていない。理事として県に帰って説明をしたが、意見の相違はそれぞれの価値観の中で色々な意見が出て、日連と同じように多数決をとって否定されたら、その反対の意見を会員として伝えるのはしょうがないと思う。それがダメだというなら、ルールとして理事と正会員が重複するのを禁止する定款にしないといけない。

内田会長：そういったことは起こる。私も県連会長の時にそういったことがあった。私は県連会長を降りた。こっちではこう、こっちではこう、そんな都合のいい立場で理事はしていない。理事会の意味ってどこにあるのか？理事会はそんなに軽いものなのか？

石橋理事：それが、軽い重いという話ではないと思う。日本連盟の理事会の考え方と、都道府県連盟の理事会の考え方、どちらも尊重されるべきである。たまたま代表として出席している人が同一だったということ。

内田会長：理事として参加していても、理事会で決定したことを総会で覆すことはあり得るということか？

石橋理事：正会員の立場としては、今の精度としては考えられる。

内田会長：その制度を改善しないといけないということか？

石橋理事：もし会長が仰るようなことをやるためには、きちんと理事会で話し合っただけで定款を変更するなり、総会で決めて行けば良い。

内田会長：私的には、凄く矛盾があるように感じる。石橋理事は感じないか？

石橋理事：それはちょっと難しい。制度の問題なので何とも言えない。

仲間専務理事：会長は一般的な常識としてそうあるべきだという話をしていて、石橋理事は制度がそうではないのなら、という話だが、そうなるなら、理事は正会員を兼ねられないと変えなければならない。

林田理事：私の今までの解釈や感覚では、多数決で反対の方もいるかもしれないが、私たち理事の仕事としては、理事会で決まったことは、理事としてそのまま進めて行くことが本

当ではないか。

仲間専務理事：それは絶対に正しいと思う。理事は反対したらダメだと思う。理事且つ正会員という人がいるので、その人は、一般的に良識的には、理事という役職があつてのことなので、絶対そのまま反対しないだろうという話なんだろうが、反対する事案が出てきている。それを規則で兼ねられないようにせざるを得ないのかという話。

一般的な感覚として、理事として決まったことに反対をしない。理事としての立場では、決まったことは十分議論が尽くされたことなので、林田理事の仰るとおりである。

菊池理事：私も制度上のことと理解している。現状では委任を受けることはしょうがない。発言の時に理事としての立場をまるっきり忘れての個人的発言の様に聞こえてしまうことについて私は言った。制度上のことは、変更が効くならば委任を受けられないことにすべきではないかとずっと前から言っているが、そこはなかなか難しいという回答をいただいている。心情として、皆で議論してここで決まったことなのに、働きかけもしたのかしないのかよくわからないが、反論を積極的にされるとということに対して、私の心情を言うだけである。否定の部分はわかっているつもりである。

大政理事：皆さんのご意見を聞かせていただいて、これを議事録にしなければならない。これを皆さんに見て貰うようになるのかなと考えてしまう。私も林田理事と同じような意見で、理事会で決まったことを、総会で別の意見を出すことは同じ人間のすることではないと考える。都道府県で考えて違う意見が出て来るならば、別の人に委任して出せば良いのではと考える。議事録は池端理事と私が作成してHPに掲載しているが、これを読まれた方がどう思うのか、理事会で決まったことを総会で違ったことを言っているのを見てどう思うのか、組織的にどうなのかと思う。一枚岩になって、ボクシングを盛り上げて行こうという目標の中で、皆さんの考えることがもっと一つになって行くべきだと思う。

## 7. その他

大政理事：指導者育成委員会から、公認セカンド制度に関する規程の改訂について、書面決議をお願いしたい。

吉沼理事：WEB登録システムになって、都道府県連盟の負担金も一緒に納めているが、月末締めで翌月半ばに返金されるような話だったと思うが、まだ4月分も返ってきていない。どの口座に振込めば良いのかという問い合わせもない状況である。財源を充てにしている都道府県もあると思う。困っているところもあるだろうから、見通しを聞かせて欲しい。

豊田事務局長：まだバタバタとしており、会員の人数をチェックしたりしている。早急に返金できるように、計算できるようにしている。直ぐに口座や金額の確認をして、いつ返金できるか確認して連絡する。

吉沼理事：予算上のこともあるので、見通しを至急に教えて欲しい。

及川局次長：来週中にでも対応する。

内田会長：長時間お疲れ様でした。ボクシング連盟は今凄く大事なところに来ていると思う。

強化委員会、各員会のおかげでオリンピックでメダルが獲れ、世界選手権でもメダルが獲れて、世界的にも日本が注目されている。皆で協力して、選手のためにこれからも頑張ってください。本日は本当にお疲れ様でした。



以上